

Ⅱ 幼児教育共通カリキュラムについて

第1章 幼児教育共通カリキュラムの体系



1 カリキュラムの性格

これまで台東区では、平成13年9月から平成14年1月まで、「幼児教育カリキュラム策定委員会」を開催し、平成14年1月「幼児教育カリキュラム〈5歳児〉」、平成15年1月「幼児教育カリキュラム〈4歳児〉」を策定しました。そして、平成14年4月から平成16年3月までの期間、石浜幼稚園、橋場保育園において「幼保一体化」に向けて「幼児教育カリキュラム」に基づき実践を進めてきました。モデル園としてのこの実践を平成16年度～19年度は継続し、平成20年4月の石浜橋場こども園の開設を控えた平成19年11月に、「台東区認定こども園教育・保育計画」を策定しました。

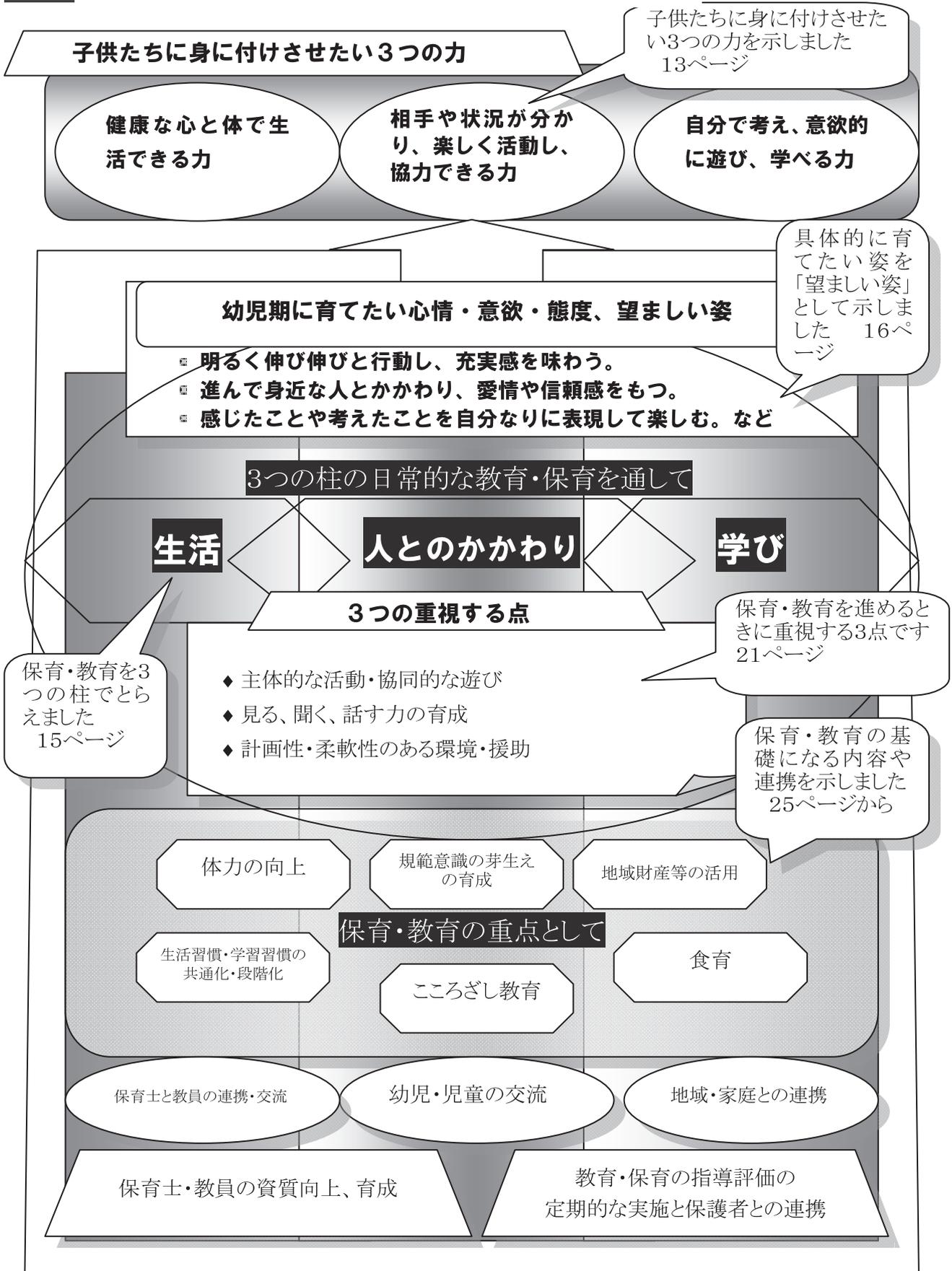
台東区の子供たちは、幼稚園・保育園・こども園や家庭などにおいて、様々な経験を積み重ねながら就学を迎えることとなります。小学校教育へ移行する子供たちの学びや育ちを、さらに豊かなものにするためには、これまでに実践を進めてきた「幼児教育カリキュラム」の対象を広げ、公立と私立の枠を超えて、幼稚園・保育園・こども園の保護者、保育士・教員、小学校の教員が互いの教育内容や保育内容について広く情報を交換し合い、相互の連携を深めて小学校への円滑な接続を図ることが必要であると考えました。

まず、就学までに育てておきたい心情・意欲・態度や経験の大枠を共通にしていきます。小学校入学までの育ちをしっかりと育むことを土台にし、多様な経験を積み重ね、子供たちの学びを豊かにしていきます。また、保育園・こども園で3歳児までに経験してきた内容を整理して表すことにより、幼稚園から入園した子供の経験を補完することができるものとしていきます。策定にあたっては平成22年度には、この中で、5歳児の10月から小学校1年生の1学期までの期間を「接続期」と捉え、「幼児教育共通カリキュラム」を策定しました。そして、平成23年度に3歳から5歳9月までの内容について「増補版」として策定しました。



遊びの姿

カリキュラムの構造





2 子供たちに身に付けさせたい3つの力

一つの例として、言葉の獲得は幼い頃には著しく発達していきますが、それ以降は次第に獲得しにくくなっていきます。このような時期について、「臨界期」(critical band)という言葉があります。その多くは、幼少期にあると考えられ、時期はごく限られたものと考えられていますが、時期や段階については、もう少し緩やかなものであるという考え方もあり、「敏感期」(sensitive period)という言葉でも呼ばれています。

子供たちが望ましい未来をつくり出すための「生きる力の基礎」を培っていくためには、幼児期こそその「臨界期」や「敏感期」であるにとらえて、生きるための基礎となる力を見定め、適切な保育・教育を進めていくことが大切になります。この時期に身に付けた心情・意欲・態度などが子供たちにとって、将来をよりよく生きるための力の基礎となり、小学校に入学してからの学びにつながっていくものとなっていきます。ここで子供一人一人には「臨界」の到達に差があり、その時期を見逃さずに体験や援助を与えていくことが大切になります。

「台東区教育委員会教育目標」、「台東区幼児教育基本理念」、そして「台東区の幼児教育がめざす子供の姿」に基づき、就学前までに「子供たちに身に付けさせたい力」について次の3つにまとめて示しました。これらは、幼児期に育てていきたい心情・意欲・態度と深くかかわっていきます。

子供たちに身に付けさせたい3つの力

健康な心と体で生活できる力

相手や状況が分かり、楽しく活動し、協力できる力

自分で考え、意欲的に遊び、学べる力

身に付けさせたい力1

「健康な心と体で生活できる力」

健康な心は、自ら体を十分に動かそうとする意欲や進んで運動しようとする態度を育てるなど、身体諸機能の調和的な発達を促す上でも重要なことです。特に幼児期においては、十分に体を動かす気持ちよさを体験していくことから、自ら体を動かそうとする意欲が育っていきます。様々な遊びの中で、幼児が興味や関心、能力に応じて全身を使って活動することにより、体を動かす楽しさを味わい、そして自分の体を大切にしようとする気持ちが幼児の中に育つようにしていくことが大切です。

また、基本的な生活習慣の形成を図るとともに、自分の体を大切にしたり、身の回りを清潔で安全なものにしたりするなど、生活に必要な習慣や態度を、幼稚園・保育園・こども園などの生活の自然な流れの中で身に付けていくようにすることは重要なことです。

身に付けさせたい力1の例

自ら健康で安全な生活をつくり出す力、生活上のきまりを理解し守ろうとする力、運動能力、周囲の様々な現象などに好奇心や探究心をもってかかわりそれらを生活に取り入れていこうとする力、困難な状況を自分で考え切り開く力、自分の気持ちを調整する力

力1につながることの例

健康な生活について必要な習慣や態度などを身に付けていけること、元気なあいさつやしっかりとした返事ができること、体を十分に動かして運動すること、危険なことに気が付いて安全に行動すること、生活の場や出会いの広がりなどについて対応していくこと、日常生活のきまりを守っていくこと、食事のマナーを身に付けること、就学に向けて身の回りのものを整理していくこと

身に付けさせたい力2

「相手や状況が分かり、楽しく活動し、協力できる力」

主体的な活動は、他の幼児とのかかわりの中で深まり、豊かになるものです。そして、その活動の中で互いに必要な存在であることを認識するようになります。幼児は一人一人を活かした集団を形成していきながら、人とかかわる力が育っていきます。

集団の生活を通して、幼児が人とかかわりを深め、規範意識の芽生えが培われることを保育士・教員が考慮していくことで、信頼関係に支えられて、自己を発揮していくことができるようになっていきます。また、互いに思いを主張し、折り合いを付ける体験をしていくことから、集団のきまりの必要性などに気づき、自分の気持ちを調整する力や統制する力、判断する力も育っていきます。

友達と楽しく活動し、協力できる力を育てていくときには、自ら進んで行動する力を育てるとともに、友達と積極的にかかわりながら喜びや悲しみを共感し合うことや、友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう体験をするなど、他の幼児と試行錯誤しながら活動を展開する楽しさや、共通の目的が実現する喜びを味わうことができるようにしていくことが大切になります。

身に付けさせたい力2の例

人とかかわる力、自分の気持ちを調整する力、自分の気持ちを統制する力、判断する力、友達と協力できる力、自ら進んで行動する力

力2につながることの例

保育士・教員や友達とコミュニケーションをとっていくこと、表現力の芽生え、自己を表現すること、周りの友達を受容していくこと、友達と一緒にいることの心地よさを感じることに気づくこと、友達とのかかわりの中で相手の思いや考えが分かったり相手を思ったりする気持ちが育っていくこと、友達と一緒に共通の目的に向かって遊びに取り組むこと

身に付けさせたい力3

「自分で考え、意欲的に遊び、学べる力」

遊びの中で周囲の状況や現象などとかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもつことから、物事の法則性に気付いたり、自分なりに考えたりすることができるようにしていくことで、学べる力が培われていきます。

保育士・教員が日常生活の中で、幼児自身の必要感に基づく体験を大切にして、数量や文字などに関する興味や関心、感覚が養われ、育まれるようにしていくことも大切になります。

さらに、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接触れる体験を通して、幼児の安らぎ、豊かな感

情、好奇心、思考力、表現力、知識の基礎が培われていきます。心と体の健康は、相互に密接な連携があるものであることを踏まえ、健康な心と体で意欲的に遊び、学べる力を育てていくには、幼児が保育士や教員、他の幼児との温かい触れ合いの中で自己の存在感や充実感、自尊感情を味わうことを基盤として、健康な心と体の発達を促していくようにすることが大切になります。そして、これらの過程を大切にして幼児が自己表現できるように配慮していくことも大切になります。

身に付けさせたい力3の例

自ら学び自ら考える力、豊かな感性や表現する力、想像力、言葉に対する感覚や言葉で表現する力、言語表現力、言語能力、数量や文字に興味・関心をもちかかわる力、読み書きする関心や能力、理解力

力3につながることの例

興味・関心、好奇心や探究心をもって行動していくこと、諸感覚を通して感じ取っていくこと、自然の変化などに気が付いて遊びに取り入れていくこと、思考力の芽生え、自分の感じたことや考えたことを言葉などで表現していくこと、つくったり試したりなど繰り返し積み重ねて力を身に付けること、食べることについての知識を得ること



3 カリキュラムで一貫した3つの柱

「幼児教育共通カリキュラム」では、幼児教育から小学校教育への接続を見通し、育ちの連続性、学びの連続性をふまえた一貫した観点として、「生活」、「人とのかかわり」、「学び」の3つを柱としました。

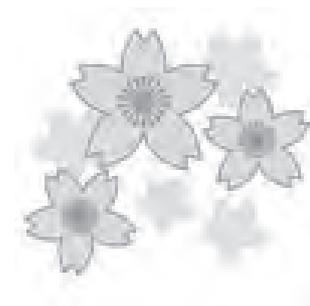
幼稚園教育要領や保育所保育指針には、「健康」、「人間関係」、「環境」、「言葉」、「表現」の5つの領域があります。幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員と小学校の教員が共通の視点で保育・教育を見ていくときに、幼児期の5領域や小学校の入門期の生活指導や教科等の指導をこの3つの柱でとらえて考えていくことにしました。

小学校の教員が幼児教育を理解するときにも、この連続性を踏まえた3つの柱があると、より理解がしやすくなります。このことは小学校入学期に不安や戸惑いにつながる幼児教育と小学校教育との「段差」を乗り越えさせるための指導の配慮事項について理解をすることにもつながります。また、幼稚園・保育園・こども園での保育・教育が総合的なものであることを踏まえると、この「生活」「人とのかかわり」、「学び」の3つの柱は、完全に独立しているものではなく、それぞれの内容、要素が相互に関連し合っていることを理解することが重要です。

■ 柱1 「生活」

■ 柱2 「人とのかかわり」

■ 柱3 「学び」





4 幼児期に育てたい心情・意欲・態度、望ましい姿

幼稚園教育要領および、保育所保育指針には教育に関するねらい及び内容が記されています。ここのねらいは、幼稚園・保育園・こども園修了までに育つことが期待される「生きる力」の基礎となる心情、意欲、態度などになります。また、内容はねらいを達成するために保育士・教員が適切に行ったり、援助したり指導する事項になります。さらに、これらの幼児教育のねらいである、「心情・意欲・態度」を保育・教育の実際の場面にそって、より、分かりやすく具体的な、「幼児期に育てたい望ましい姿」として示しました。ここには、幼稚園教育要領、保育所保育指針の各領域に示すねらいの趣旨に基づいて適切で、かつ具体的な内容を加えてあります。

生活

■ 幼児期に育てたい心情・意欲・態度

- ・ 明るく伸び伸びと行動し、充実感を味わう。
- ・ 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。
- ・ 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。
- ・ 幼稚園・保育園・こども園の生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう。

■ 幼児期に育てたい望ましい姿

- ・ 生活に必要な衣服の着脱、食事、排泄などが自分でできる。
- ・ 早寝、早起き、朝ごはん、十分に睡眠をとる習慣が身に付いている。
- ・ 元気よくあいさつや返事をする。
- ・ 全身を十分に動かして遊ぶことを楽しむ。
- ・ 自分の健康に関心を持ち、薄着や手洗い、うがいなど病気の予防などに必要な行動をする。
- ・ 自分の身の回りの整理整頓を進んでやり持ち物の管理をする。
- ・ 園生活において次の活動などの見通しを持ち、行動する。
- ・ 分からないことを尋ねようとする。
- ・ いろいろな遊びを楽しみながら、最後まで物事をやりとげようとする気持ちをもつ。
- ・ みんなで遊んだ後の片付けや整理整頓をする。
- ・ 生活のための約束を守ることの大切さや意味を理解し守る。
- ・ 手指の器用さや操作のために、手指を使った様々な活動に楽しんで取り組む。
- ・ 危険な場所や遊び方を理解し、気を付けて行動し大きな怪我につながらないよう自分の身体は自分で守る。
- ・ 交通規則を理解し守る。
- ・ 食事のマナーを身に付ける。

人とのかかわり

■ 幼児期に育てたい心情・意欲・態度

- 進んで身近な人とかかわり、愛情や信頼感をもつ。
- 社会生活における望ましい習慣や態度を身に付ける。
- 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。

■ 幼児期に育てたい望ましい姿

- 集団生活の中でよいこと悪いことの判断基準が作られ考えて行動する。
- 自分の思いを相手に伝わるように言葉で話す。
- 相手を傷つけるような言葉は使わず、丁寧な言葉で自分の思いを相手に分かるように伝える。
- 話をしている人の顔を見て、落ち着いて最後まで話を聞く。
- 相手の話を興味をもって注意して聞き理解し、言葉で伝え合う。
- 仲間の中の一人としての自覚が生まれ、自分への自信と友達への信頼をもつ。
- 様々な葛藤を繰り返しながら折り合いを付ける体験をし、自分の気持ちを調整する力をもつ。
- 友達のよいところやうまくできたことは言葉に出してほめる。
- うまくできなくても、友達が一生懸命やったことを認める。
- 相手の思いを受け入れる。
- 自分と異なる思いや考えを認める。
- 高齢者をはじめ地域の人々と喜んでかかわり、親しみをもつ。
- 小さいクラスの友達に対して優しく接したり話しかけたりする。
- 子供たち同士で遊びのきまりや約束を決め守る。
- 集団生活に必要な約束、きまりを理解し守る。
- 当番活動などを通して人の役に立つことを喜ぶ。



学び

■ 幼児期に育てたい心情・意欲・態度

- 身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心をもつ。
- 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。
- 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにする。
- 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。
- 日常生活に必要な言葉が分かるようになるとともに、絵本や物語などに親しみ、先生や友達と心を通わせる。
- いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。
- 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

■ 幼児期に育てたい望ましい姿

- 季節の移り変わりや自然の事象に気付き興味・関心をもつ。
- 季節の変化に気付き、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどを感じる。
- 生活の中で、美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。
- 様々な教材、道具を必要に応じ使い、工夫したり、作ったりして遊びを深める。
- もっている知識を様々、使って遊び、遊びを膨らませ楽しむ。
- 自分たちで相談して協力しながら活動する。
- 栽培や飼育活動を通して生命の尊さに気付く。
- 様々な音、形、手触り、動き、味、香りなどに気付いたり感じたりして楽しむ。
- 絵本や物語に親しみ、想像する楽しさを味わう。
- 遊びや生活に必要な言葉を状況に応じて使う。
- 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
- 身の回りの出来事や職業など社会の営みに興味・関心をもつ。
- 身近な環境に自分からかかわり、発見を楽しんだり、考えたりする。
- 色、数、量、図形、文字、時計などに興味・関心をもつ。
- 様々な動きを取り入れて全身を十分に動かして遊ぶ。
- いろいろな食べ物に興味・関心をもつ。





5 カリキュラム実践における保育・教育の評価

「幼児教育共通カリキュラム」の実践を進めていくときには、幼児の育ちについて、一人一人の発達の状況をとらえていくことが大切になります。時期をとらえて、理解力、表現力、友達関係、知識・技能、判断力などについて評価をしていくことが大切になります。

ここでは、「幼児教育共通カリキュラム」の3つの柱ごとに示した、幼稚園・保育園・こども園において共通の「幼児期に育てたい望ましい姿」に基づいて、保育や指導を振り返り、日々改善を行い、保育や指導と評価を一体のものとしていくようにしました。このことで、子供たちの育ちの状況を把握していくことに加えて、保育士・教員の保育・教育の改善を図っていくことができます。

現在、幼稚園・保育園・こども園から小学校へは、幼稚園幼児指導要録、認定こども園こども要録や保育所児童保育要録の抄本や写しなどの送付が義務付けられています。幼稚園・保育園・こども園から小学校への円滑な接続を進めていくという点から、幼児期から小学校入門期を通して一貫した観点で、段階的に子供たちの育ちを客観的に評価していくことも有意義なことになります。

小学校入学までに育てておきたい心情・意欲・態度について、指導要録の観点や重点などとあわせて、幼稚園・保育園・こども園の保育士・教員と小学校の教員とで共通理解を進めるなどの連携を行うことは、小学校への入学に向けての連携や情報提供の際にも有効になります。その際にも、この「幼児期に育てたい望ましい姿」などを参考とする観点として活用することができます。活用の際には評価自体が目的になることなく、一人一人の子供の発達や育ちの様子をしっかりと見ていくということを意識していくことが重要です。



保育や指導の振り返り

